

2025 年9月9日

各 位

三井住友信託銀行株式会社

京都フュージョニアリング株式会社への出資について

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、核融合発電プラントのエンジニアリングを手掛ける京都フュージョニアリング株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役社長:小西 哲之、以下「京都フュージョニアリング」)に対して、インパクトエクイティ投資として出資しましたのでお知らせします。

京都フュージョニアリングは、日本で培われた技術を基に核融合発電の実現を目指し技術開発と事業開発に取り組む京都大学発のスタートアップ企業です。世界の核融合開発市場でも存在感を示し、アメリカ、イギリス、ドイツ等の公的プロジェクトに京都フュージョニアリングのシステムが採用されるなど、世界の核融合技術開発にも貢献しています。

直近の取り組みとして、核融合反応で発生するエネルギーを利活用するための「フュージョン熱サイクルシステム」を実証する「UNITY-1」は、液体金属ループを用いた発電技術の実証の最終段階にあり、世界に先駆けた“模擬プラントでの発電技術の実証”を目指しています。燃料を絶えず供給するための「フュージョン燃料サイクルシステム」は、本社併設の研究開発拠点において個々の装置・システムの性能試験を進めており、2026 年には京都フュージョニアリングとカナダ原子力研究所とのジョイントベンチャー「Fusion Fuel Cycles Inc.」が主体となり、それらの装置・システムを統合した「UNITY-2」で、世界唯一である燃料循環システム統合実証をカナダで開始します。プラズマ加熱システム「ジャイロトロンシステム」は、新たに英国の Tokamak Energy 社に採用されたほか、1基のジャイロトロンで5つの周波数の電磁波出力を世界で初めて実証しています。

当社は、2022 年4月から、社会課題解決に向けた挑戦や取り組みを資金面からサポートすることを目的として、インパクトエクイティ投資を推進しています。核融合発電は、環境負荷が低く高効率なベースロード電源としての活用が期待されており、当社は本件出資によって、京都フュージョニアリングの技術開発を支援することを通じて、核融合発電の早期社会実装の実現を目指します。

今後もこのような、社会課題解決に向けた挑戦や取り組みをサポートすることで、「資金・資産・資本の好循環」の実現を目指していきます。

【京都フュージョニアリング株式会社の概要】



会社名	京都フュージョニアリング株式会社
代表取締役	小西 哲之
所在地	東京都大田区平和島六丁目1番1号
ホームページ	https://kyotofusioneering.com/

以上